パラグアイ経済（２０１４年７月）

概要

（１）国内経済

●１２～２５日，マリアノ・ロケ・アロンソ市で第３３回エキスポ２０１４が開催され，延べ５６万人以上の来場者が訪れた。

●パラグアイ穀物・油糧作物輸出協会（CAPECO）及び農業バイオテクノロジー研究所（INBIO）は，２０１４年における大豆生産量が，２０１３年における生産量を約１３％上回る見込みである旨公表した。

●中銀によれば，本年１月－６月にかけて６ヶ月連続でインフレ率が低下し続けており，右６ヶ月における累積インフレ率は３．２％となった。

●世銀によれば，国民一人あたりGDPにおいてパラグアイは２００９年の２，５１０百万ドルから２０１３年の４，４０３ドル（７５．４％増）の高成長を達成し，右５ヵ年においてラ米で２番目に高い成長率となった。

（２）対外経済

●１６日，カルテス大統領は，ＢＲＩＣＳ・ＵＮＡＳＵＲ首脳会合出席のためブラジリアを訪問した。

●２９日，カルテス大統領は第４６回メルコスール首脳会合に出席した。

１　国内経済

（１）第３３回エキスポ２０１４

●１２～２５日，マリアノ・ロケ・アロンソ市で第３３回エキスポ２０１４が開催され，延べ５６万人以上の来場者が訪れた。また，商工省によれば，同エキスポに際し２，０００以上のビジネスミーティングが行われた。

●２４日，上記エキスポに際し，ウルグアイ，パラグアイ及びボリビアの３国の企業代表による会合が開催され，右企業代表らはアルゼンチン及びブラジルによる保護主義的な貿易措置の撤回及び太平洋同盟とのコンタクトを今後図るため，URUPABOLという企業連合を組織することに合意した。

（２）その他投資関連

●民間航空局（DINAC）によれば，シルビオ・ペティロッシ空港の新ターミナルの建設には１８４百万ドルの費用が必要であり，２０１５年中に官民連携法を適用しての事業開始を見込む。同局は新ターミナルの建設により，既存のターミナルへの同局事務所の収用や近代的な商業センター建設へ向けた民間投資の促進を図る考え。既存ターミナルは１３，５００ｍ²，新ターミナルは３０，０００ｍ²を計画している。

（３）農牧関連（大豆・ゴマ）

●パラグアイ穀物・油糧作物輸出協会（CAPECO）及び農業バイオテクノロジー研究所（INBIO）は，２０１４年における大豆生産量が，２０１３年における生産量（８，２０２，１９０トン）を約１３％上回り，９，２８５，５９２トンの新記録を樹立する見込みである旨公表した。右２０１４年大豆生産量（９，２８５，５９２トン）の内，８，０９３，８２１トンは輸出向け，または大豆油へと加工され，残りの１，１９１，７７１トンは他の加工（配合飼料等）及び次期作付用種子等となる見込み。パラグアイ北部地域を除いたパラグアイ全土において，本年１月中旬から２月中旬にかけて十分な降雨に恵まれた結果，大豆の成長が促され，生産量の増大につながっている。

●中銀の発表によると，２０１４年の大豆輸出額は２，０９０百万ドルとなる見込み。なお，過去２０年間におけるパラグアイの大豆輸出額は約１４倍，直近５年間における大豆油の輸出額は約５．５倍となっている。

●投資・輸出促進局（REDIEX）によれば，本年１月－６月期のゴマの輸出は４１百万ドルを記録し，昨年同期の２２百万ドルと比較してほぼ２倍となった。右はゴマの生産量の増加の他，ゴマの国際価格の上昇が要因となっている。

（６）インフレ率，ＧＤＰ成長率，為替相場，財政状況

●中銀によれば，本年１月－６月にかけて６ヶ月連続でインフレ率が低下し続けており，右６ヶ月における累積インフレ率は３．２％となった。また，６月のインフレ率は本年初めて減少に転じ０．１％減となった。右は果物の価格が７．４％減及び牛肉の価格が２．２％減となったことが主な要因となっている。

●世銀によれば，国民一人あたりGDPにおいてパラグアイは２００９年の２，５１０百万ドルから２０１３年の４，４０３ドル（７５．４％増）の高成長を達成し，右５ヵ年においてラ米で２番目に高い成長率となった。なお，第一位はウルグアイ（８０．３％），第３位はボリビア（６５．５％），第４位はペルー（５８．９％），第５位はアルゼンチン（５６．０％），第６位はチリ（５５．１％），第７位はパナマ（５３．９％），第８位はコロンビア（５３．３％），第９位はエクアドル（３５．０％），第１０位はメキシコ（３４．０％），第１１位はブラジル（３３．８％），第１２位はベネズエラ（２５．０％），第１３位はドミニカ共和国（２３．８％）。

●２日，大蔵省は約１１百万ドル相当の国内向け国債を発行した。右によって得られた資金は本年度の政府支出及び債務償還に当てられる。年利は３年国債で７．９％，４年国債で８．３％，５年国債で８．５％に設定されている。

●大蔵省の公表した財政状況レポートにおける公表値によれば，公共事業部門における本年上半期における２０１４年予算の執行率が２１．６％，執行額は約２１９百万ドル（当該予算：約１，０１６百万ドル）に留まった。なお，２０１３年上半期における執行率は１９．６％，執行額は約３３８百億円（当該予算：１，３５３百万ドル）であり，執行率では本年上半期が前年同期を上回っているものの，執行額では大きく下回った。パラグアイの建設部門の各社代表及びパラグアイ建設協会（CAPACO）は，上記予算執行の遅滞の事由として，①カルテス大統領が２０１３年４月の当選直後よりすべての公共事業の一時凍結及び見直しを実施したこと，②新規事業の入札公示が漸く実施され始めた頃に，長雨及び右による洪水が発生し，工事の進捗を遅延していることの２つを挙げている。

（７）貿易・密輸関連

●中銀によれば，本年上半期における輸出総額は前年同期と比較して９．２％増加し５，５０９百万ドルとなった。主要な輸出品目別に見ると，大豆２，０９０百万ドル（８．２％増），食肉５８７百万ドル（２２．８％増），大豆粕６０２百万ドル（５５．２％増），電力６５７百万ドル（１８．０％増）となっている。

●１８日，御厨世界税関機構事務局長が当国に来訪し，同事務局長及び国家税関局関係者等が参加したビジネス昼食会において，２０１３年にバリで締結された貿易円滑化協定に基づく輸出入手続き，通関の迅速化及び通関に係る費用や手続きの法制度化の実施について議論を交わした。

●国家税関局は，本年上半期において43,197着の衣料品を書面による法的な手続きがなされていないこと（密輸）を理由に押収した旨公表した。

対外経済

（１）対日関係

特になし

（２）対外関係

〈カルテス大統領による年次報告発表〉

カルテス大統領は,就任後約１０ヶ月間の政権運営の成果につき発表（演説）を行った。右発表において同大統領は外交につき，特に，二国間関係（バイ）において，経済・貿易関係を優先しつつ，域内各国との関係正常化を行った旨強調した。

〈ＢＲＩＣＳ・ＵＮＡＳＵＲ首脳会合〉

●１６日，カルテス大統領は，ＢＲＩＣＳ・ＵＮＡＳＵＲ首脳会合出席のためブラジリアを訪問し，同日，同首脳会合においてステートメントを行った。右ステートメントにおいてカルテス大統領は，パラグアイ政府が推し進める政策の３つの柱として，貧困削減，社会的包摂を伴う経済発展，国際社会への参加を掲げ，パラグアイは特に近年，貧困削減の分野で大きな成果を挙げており，更なる貧困削減に向けて極貧層削減国家プログラム「Sembrando Oportunidades」等に取り組んでいる旨述べた。

●同１６日，カルテス大統領は，ルセーフ・ブラジル大統領，フェルナンデス・アルゼンチン大統領，バチェレ・チリ大統領，サントス・コロンビア大統領，プーチン・ロシア大統領，ズマ・南アフリカ大統領，習近平中国国家主席，モディ・インド首相との立ち話を行った。右に関し，ロイサガ外相は習近平中国国家主席とは，両国間の経済関係及び中国とラテンアメリカ諸国との経済関係等につき意見交換を行った旨述べた。

〈メルコスール首脳会合〉

２９日，カルテス大統領は第４６回メルコスール首脳会合に出席し，同首脳会合においてステートメントを行った。同大統領は，同ステートメントの中で，大統領就任以降，パラグアイがメルコスールに問題なく復帰できるよう，可能な限りの努力を重ねてきた旨述べるとともに，カルテス政権が，国民と国の将来のために，メルコスールに完全な形で復帰するという姿勢を貫いてきたことを強調した。また，今後当国議会において，ボリビアのメルコスール正式加盟にかかる承認手続きが行われることとなる旨言及した。(了)